

ルイス・ハイン「児童労働シリーズ」より

Lewis Hine, from "Child labor series"

1909, 11.3×17.0cm, セラチン・シルバー・プリント

1874年ウィスコンシン州オシコンに生まれ、27歳のとき
ニューヨークに出て教師を務める。

エリス島に到着する

移民や児童労働を調査、記録した。

このハインの写真は多くの新聞や雑誌などにとりあげられ、
児童労働法の制定に貢献したといわれる。

ジェイコブ・リースとともにアメリカの

ドキュメンタリー写真におけるパイオニアであった。

1940年ニューヨーク州

ヘイスティングス・オン・ハドソンに没。



2000年1月28日(金)～4月6日(木)

[学芸員によるフロアレクチャー] 毎月＝第1、第3金曜日 午後2時～

[主催・会場] 東京都写真美術館 3階常設展示室

[開館時間] 午前10時から午後6時まで(木・金のみ午後8時まで) 入館は閉館の30分前まで

[協力] 株式会社 乃村工藝社

[休館日] 毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合はその翌日)

[観覧料] 常設展＝一般500(400)円/小・中・高校生250(200)円

※館内の小・中学生、第2・第4土曜日に観覧する高校生(要証明)は、常設展のみ無料となります。()内は20名以上の団体料金です。

※小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護の方1名は無料になります。

[交通機関] JR恵比寿駅より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内) お車でのご来館はご遠慮ください。

[インターネットアドレス・NTTハローダイヤル] <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp> 03-3272-8600

※作家、作品に関する情報は、館内の情報検索システムでもご覧になれます。

編集＝東京都写真美術館 発行＝財団法人 東京都歴史文化財団、東京都写真美術館 ©2000
デザイン＝韓島知彦 製作＝株式会社 求道堂



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153-0062

250

古紙配合率90%再生紙を使用しています

master works, master photographers



写真表現の軌跡

第4部 アメリカの写真——東京都写真美術館コレクション展



1 プラット・D・バビット

《展望台からのナイアガラ滝の眺め》

Platt D. Babbitt,

"View of Niagara Falls from prospect point"

1855年頃、16.4×21.5cm、ダゲレオタイプ

ナイアガラ滝で観光客のために土産物として
作られた写真は数多くあるが、

このアメリカ側の展望台で1853-1870年の間、

写真撮影の権利を得て営業していたのがバビットである。

定位置にカメラを固定し(可搬式の三脚ではなく)、

顧客の群像を雄大な滝を背景に撮影していた。

なおアメリカのイーストマン・ハウスには、

1849年にサウスウース&ハウスが撮影した

殆ど同じ構図のダゲレオタイプ

(資料で見るかぎりバビットとは左右逆像)も

保存されている。



4 アルフレッド・スティーグリッツ《三等船室》

Alfred Stieglitz, "The Steerage"

1907, 33.1×26.1cm, フォトグラビア

1864年、ニュージャージー州ホーボーケンに生まれた。

6歳のときニューヨークに移り、81年にはドイツへ移住する。

スティーグリッツはベルリン工科大学に学び、

そしてベルリン大学では写真化学を専攻。

90年合衆国に戻り、写真の制作および啓蒙活動、写真雑誌の編集などに活躍。

またリンク・リングのアメリカ最初の会員である。

97年ニューヨーク・カメラクラブを設立し、機関紙「カメラノーツ」を発行。

また1902年フォト・セセッション(分離派)を結成。

1903年、機関紙「カメラワーク」を創刊する。

そのギャラリー「291」を1905年ニューヨークに開設し、写真だけではなく

最先端の芸術の合衆国での展開における功労者であった。

スティーグリッツは、理論と自身の制作の両面から写真を絵画から分離し、

写真的表現を確立する上での、

ある意味で「思想的」な改革をおこなった。46年没。



5 ポール・ストランド《女性、パツクアロ》

Paul Strand, "Woman, Patzcuaro" from "Photographs of Mexico"

1933, 16.4×12.8cm, フォトグラビア

1890年ニューヨークに生まれた。14歳のとき通っていた学校で

ルイス・ハインによる写真の課外授業を受け、

連れて行かれたギャラリー「291」から衝撃を受け、

以後定期的に作品をスティーグリッツに見せて意見を聞く習慣となった。

スティーグリッツは、ストランドを高く評価し、

カメラワーク最終号は、ストランド特集であった。

陸軍でレントゲン技師を務めたり、医学映画の製作会社で働くなど

写真にかかわるいろいろな仕事に手を出しながら、

チャールズ・シーラーと組んで映画「マンハッタン」を制作している。

32年、メキシコ政府の写真・映画部門の責任者となり、モスクワでは

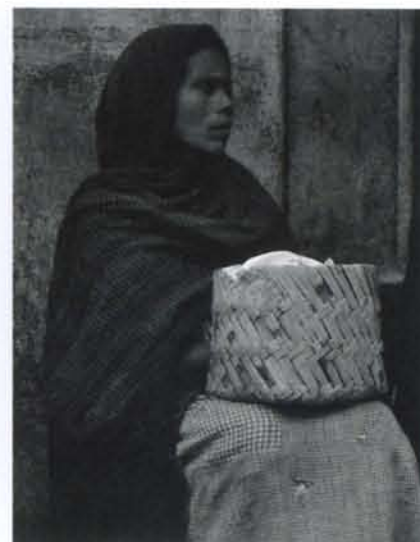
エイゼンシュタイン等と交流をもったが、

提案された映画の共同制作は断っている。

写真と映画の両方で活躍し、1946年から47年にかけて

ニューヨーク近代美術館で大きな個展を開催した。

48年以後フランスに住み、76年没。



6 エドワード・ウェストン《ピーマン No.30》

Edward Weston, "Pepper No.30"

1930, 23.5×18.6cm, セラチン・シルバー・プリント

写真芸術におけるピカソとも呼ばれるウェストンは、

1886年イリノイ州ハイランドパークに生まれた。

少年時代にシカゴで写真展を見て興味を持ち、父親に買ってもらった

ボックスカメラで写真を始め、後にかリフォルニアで写真館を始める。

1917年頃から、クローズアップによって

人間の視覚とはまったく異なる写真特有の表現を確立。

22年の展覧会を契機にメキシコへ移住し、リベラ、オロスコ、

シケイロスなどの先鋭的な芸術家と交流をもち、影響を受けた。

26年カリフォルニアに戻ったウェストンは、

クローズアップによる静物のほか、風景、人物(裸体)などに

深いピントによる写真的リアリズムを極限まで追求した。58年没。

